

## 「貧困率」

過日、経済的な理由で進学をあきらめた女子高生が自らの貧困状況を訴えたテレビ報道に関し、「事実とは違うのでは？」などとインターネット上を騒がす出来事がありました。現代日本において「貧困」というのは遠い過去の話のような印象もありますが、実は大きな社会問題になっているようです。

### 1. 「絶対的貧困率」とは？

必要最低限の生活水準を維持するための食糧・生活必需品を購入できる所得・消費水準に達していない絶対的貧困者が、その国や地域の全人口に占める割合をいいます(コトバンクより)。絶対的貧困とは生きるためのお金がない状況であり、主として発展途上国で発生している問題です。世界銀行の定義では、1日1.25米ドル未満(年間約450米ドル:1ドル=100円の場合約45,000円)で生活している人をいい、世界の4人に1人が該当するとしています。

### 2. 「相対的貧困率」とは？

OECD(経済協力開発機構)は、世帯の可処分所得(手取り額)を世帯人数の平方根(2人の場合1.4142…)を除いて算出した「等価可処分所得」順に並べ、その中央値の半分の値を「貧困線」と称し、同線に達しない相対的貧困者が、その国や地域の全人口に占める割合を相対的貧困率としています。これは国民の経済格差を示す指標です。

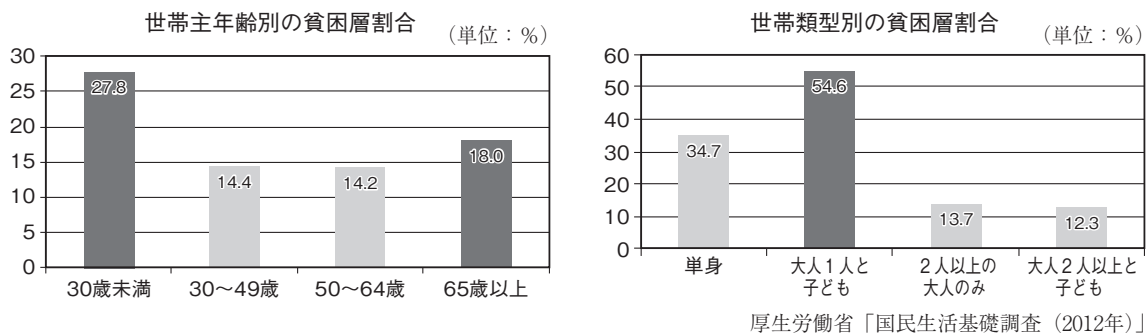
### 3. わが国の相対的貧困率は16.1%!

厚生労働省「国民生活基礎調査(2012年)」によると、わが国の相対的貧困率は16.1%と、およそ6人に1人が相対的に貧困状態であることを示し、「貧困線」は122万円でした。相対的貧困率が高いということは、所得格差が大きいことを意味しますが、わが国の相対的貧困率の高さはOECD加盟国の中でも上位となっています。

### 4. キーワードは「若年」「老年」「シングルマザー」

同調査において、貧困線を下回る層を世帯主年齢別及び世帯類型別にみると、世帯主年齢別では30歳未満と65歳以上が、世帯類型別では大人1人と子ども世帯が高くなっています(下図参照)。極論ですが「若年」「老年」「シングルマザー」に相対的貧困者が多く、特にシングルマザーの貧困は「子どもの貧困」でもあり、冒頭例のように「なぜ私だけ進学できないの?」という、子どもたちへ大きな影響を与えかねません。

「ワーキングプア」が社会問題となっている現代のわが国において、「非正規雇用の正社員化」や「少子高齢化社会への対応」がまさに最重要課題であるということを示しています。



## 閑話ひとつ

- ▶ JR九州が運行するクルーズトレイン「ななつ星 in 九州」が相変わらず大人気のようです。建造費30億円の超豪華列車で九州各地を巡り、旬の食材を使用したこだわりの「食」を味わうこのツアーは、旅行料金の最高額が1人140万円と、金額も「超豪華」ですが申し込みが殺到し、抽選倍率はなんと30倍を超えるとか…。
- ▶ JR東日本も来年5月に豪華寝台列車「TRAIN SUITE 四季島(トランスイートしきしま)」を投入、東日本各地などを巡るツアーを開始します。会津若松駅に停車するコース設定もあり、とても楽しみです。もっとも料金が「ななつ星」に劣らず高額ですので、私にとって当面は「見る」楽しみだけです…。
- ▶ 一方、特急「ひばり」「あいづ」「ひたち」などで人気の高かった、旧国鉄特急型電車「485系」の最後の国鉄色(クリーム色に赤い帯)編成が、本年6月にラストランを行い引退しました。485系は、かつて全国各地を駆け巡った国鉄黄金期の名車輦であり、とても残念です。またひとつ、「昭和は遠くなりなけり…」

(M.S)